

研究通信

No. 55

1966.12刊
村落社会研究会
事務局

豊橋市町畠
愛知大学文学部
社会学研究室内

第十四回村研大会報告の概要

第十四回村研大会は「研究通信」第五十三号などで御案内したように行く十月十九・二十の両日、箱根湯本茶屋の公務員共済連宿舎青風荘で開催されました。参会者延六三名。

第十四回大会のテーマは「村落における権力構造の変化——村の解体と再編成——」と決定しており、報告も右のテーマに添つて行なわれました。発表は例年のとおり自由課題と共通課題とに分れましたが、本大会では自由課題の場でも発表後、総括質疑に対する発表者の応答という形式をとりました。発表者に対する問題点の要旨を掲げますと、

米地氏の「明治末期における「神社整理」について」に対しては、一行政村一社という明治政府の神社行政政策が下部まで浸透せず、一隣保一社もしくは一同族一社のような形になつても残存した由因などが論ぜられました。次に吉沢氏「山村社会の展開と山林労働組合」については幕末より明治にかけて区有林の解体と山地主の土地集積、山守りの特殊的地位に対するおくれた労働組織の問題に論点

が集中しました。柿崎京一氏「明治二〇年代における海苔株の解放運動と村落構造」では海苔株をめぐって本村と枝村、さらに本家・分家との関係の連関性、海苔問屋・高利貸商業資本の果した役割り海苔株自体の絶有的性格などが論ぜられました。

宮崎俊行氏「大型請負耕作体と村落」については、大型請負耕作

発生の要因として土地所有——すなわち個別・分散的零細所有者的政治の中に基盤が見出され、さらに昭和三十九年以降の不景気で資本の側から要請される条件に農民側から推進されねばならないとい

う矛盾点が論議されました。黒崎八州次良氏「戦時体制期の農家の経営と部落について」は昨年に引き続き北海道留寿都村大西家の文書を中心として太平洋戦争期における農業経営ならびに農家生活上の詳細な分析がなされ、それぞれ質疑がありました。

第一日目の自由課題ならびに総括質疑とこれに対する報告者の応答は活発になされ、ほとんど持時間を超過する有様でした。終つて総会・懇親会にうつり、談笑に時の移るを忘れました。

総会では小池編集委員長の報告があり、事務局竜野より会務・会計の報告がありました。また今後の会運営について、とくに拡大委員、編集委員の選任については、まず推薦委員七名を投票で選び、推薦委員が拡大委員ならびに編集委員の選任を行なうという事務局提案を可決、推薦委員の選挙を行ないました。推薦委員には小池・島崎・中野・有賀・竹内・福武・川越の七氏が選挙され、総会後早い機会に委員会を開くこととしました。

第二日目は島崎・中野両氏を座長とし共同課題の報告および討議

がなされました。始めに菅野氏「村落の再編過程と権力構造」の報告があり、秋田県平鹿町の事例をもとにリンクの共同出荷、共同防除ならびに共同選果などの協同組織が資本制へ対応する体制をとつており、組織を強化する過程で五反未満規模層が排除され、村内権力が上層農を中心とする方向へ移つてゆく状態が細かいデータによって実証され、さらに小農経営の行き詰りをもとの村組織に再編することで対応し、乗り越えようとしている旨、注目すべき結論を出されました。

次の安孫子麟氏「農地改革後における村落支配構造の変質」と題する報告も本大会テーマにふさわしい報告でした。すなわち本報告では宮城県大地主地帶南郷村、田尻村二カ村の事例から、農地改革前、改革過程および構造改善事業施行の三段階に分つてそれぞれ詳細なデータに基いて分析されました。この報告の論点としては、農家の家計充足率がこの地帯では概して高いが、現段階では構造改善事業が農民の負担増加に問題点を残しているため、出稼ぎ・兼業などによる充足形態が一般的になりつつあり、それは農業の再生産が可能にしていける条件を支えており、この条件の存続いかんが村の解体に重要な関連性をもつこととなる、という指摘がなされました。

最後に川越・後藤両氏「志摩漁村の権力構造」では志摩の真珠養殖漁村数カ村の事例に基づいた報告がなされ、漁村、とくに志摩漁村の特殊性に依り、一に村内に賃労働者層が形成されてくるかどうか、金入手などの条件が問題であり、村の解体もこれらの事態が進行す

るに伴つて明らかになるであろう、と結論づけました。

第二日目の午後から共同討議にうつり、共同過題報告者三氏の報告に基いて総括が行なわれました。村落構造については菅野氏の報告に関連して村内の協同組織を考える場合、労働力の調達方法、労働力商品化、安孫子氏の場合には労賃の配分と地代の分配との対立矛盾、共同經營分解の要因、川越・後藤両氏報告においては養殖漁業において窮屈した商人資本の性格などの諸問題点が村落構造によくに解体を進める要因として指摘され、さらに権力構造に関しては、三報告共通にみられるところは上層農家、或いは商業資本的業者を中心に共同体が再編成されつつあるのではなかろうか、という点と権力の人格的表現としての村落内リーダーが國家権力に対応してどのように動くかが問題となるであろうし、農民が何故そういうリーダーを選ばねばならないか。そのリーダーを支えているものは何か、ということについては今后の問題点となる、とされました。

次に四十二年度の課題について、さまざまの意見が提出されました。が、討議時間の関係で残念ながら中途で打切り、この問題については来年度拡大委員会で討議の上、会員にアンケートを送つて広く意見を求めることとしました。最後に次期事務局の愛知大学川越氏から閉会の辞があり、二日間にわたり、実り多い第十四回大会の幕を閉ぢました。

付記 この一年間事務不慣れで会員諸氏、大会参會者に多御迷惑をおかけいたしましたことを深くお詫び申しあげるとともに御協力を厚く感謝いたします。なお、大会の論旨・論点などにつきまし

てはテープによりました。枚数に限りのあることとて要點のみを掲げました。懇しからず御寛容下さい。

(龍野四郎)

推薦委員会ならびに

在京委員会報告

昭和四十一年度村研総会で選舉された推薦委員が、新たな委員会をどのように構成するか相談するため、去る十一月九日（水）午後六時より慶應義塾大学野口ルームに集りました。なお当日出席の推薦委員は福武直・中野卓・島崎稔の三氏だけでしたが、小池基之・竹内利美両氏よりは書面により御意見が寄せられ、有賀喜左衛門・川越淳二両氏よりは事前に口頭で御意見をよせられておりましたので、時日の遅延を避ける必要もあり、この席で前記総会の委託にもとづく運営委員・編集委員の選任を別掲のとおりおこないました。当時は引続き午後六時半より旧編集委員会も召集されておりましたので、これまで小池委員長のもとで編集事務に当つて来た米地実坂井達朗両氏、また前事務局担当の龍野四郎氏の参加をえて、旧拡大委員会方式による在京委員会に移行することとしました。それはひとつは、新委員会を発足させるための連絡の仕方、もうひとつは年報第三集のための公募の仕方をきめることです。これは、年内に運営・編集両委員会を開催する必要があり、そのため東京以外に在住される委員の御意見を問い合わせることと、また年内に原稿公募の

記事を載せた村研通信を愛知大の事務局より刊行発送していただけます。ここに於けるためには新委員会の第一回の会合が開かれてからでは、原稿〆切を大幅に早くする要ありとの申し送りを実現できなくなるためです。

これらを解決するため、右の在京委員会で次の方法をとることがきまりました。

(1) 別掲のような公募記事を村研通信に出すこと。

(2) 第三集のための応急の編集事務は、さしあたり東京大学文学部福武直研究室で開始する。これは第二集までの年報編集の中心となつて下さった慶應義塾大学経済学部小池基之氏よりとの邊で交替してほしい旨御要望があり、創刊よりの御尽力で既に軌道にのせていただいたことであり、また、更にして続けてと御願いしても御無理なことも了承されたからであります。

(3) 運営委員会は在京者五名と東京以外に在住される方々一一名で構成されているので、十二月に開かれる同委員会の通知を出すさい、当日御出席いただけない方からは御意見を寄せて下さるよう御願いすること。

(4) 新しい委員による第一回の運営委員会ならびに編集委員会は十二月九日（金）午後七時より中央大学五号館九七一号室で合同委員会として開催する。

(5) 以上の件につき愛知大学にある村落事務局への連絡は東京教育大学文学部中野卓研究室で担当し、以後、在京の連絡所として運営委員会関係の連絡にあたり、事務局の活動を補佐する。

村研委員決定のお知らせ

昭和四十一・二年度の村研委員は、大会で選ばれた推薦委員によって、次のようにお願いすることにしましたので、御報告いたします。
(なお会の運営・年報・通信の編集その他どんなことでも、お気がるに御意見をお寄せ下さることができるように住所も併記しましたので御利用下されば幸です)

◎運営委員

北海道

布施鉄治

札幌市中の島公務員アパート四二三一三

安孫子麟

小樽市砂留町一七一四 合同宿舎

東北

竹内利美

仙台市五条通五 東北大北山宿舎二号

島田隆

仙台市小田原北三番丁通五

県営RCアパート南一四号

関東

有賀喜左衛門

神奈川県逗子市久木三四〇

小池基之

藤沢市鶴沼藤ヶ谷三一三一三

福武直

東京都世田谷区代田六一三一一〇

中野卓

東京都武蔵野市吉祥寺北町一一〇一六

島崎稔

東京都新宿区中落合三一一一四

中部

川越淳二

豊橋市八町通り五一一二四
愛知県豊田市樹木町五一一六九

神谷力

名古屋市昭和区恵方町二
県営住宅二三一號

関西

中田実

大阪府箕面市桜ヶ丘一四六
豊橋市牛川町南台三九

西部

余田博通

大阪府箕面市桜ヶ丘一四六
松江市内中原町二九〇一五

後藤和夫

福岡市箱崎貝塚公団住宅八三三号

◎編集委員長

福武直

山岡栄市
松江市内中原町二九〇一五

委員

小池基之

中村正夫
福岡市箱崎貝塚公団住宅八三三号

委員

島崎稔

東京都中野区昭和通り一五
東京都中野区若宮二一五六

委員

蓮見彦

東京都中野区若宮二一五
都営第七住宅一二一七

委員

安原茂

東京都北多摩郡久留米町
ひばりヶ丘団地二六一三

米地 実 東京都北多摩郡国立町富士見台一・七
公団住宅一一四一〇四

会費納入について

「村落社会研究」

第三集 原稿募集

村研年報の原稿は大会での報告者の中から何人かに書いていただけます。お願いするつもりですが、その他に第二集と同様に会員の方々からも募集します。については、以下の要項に従って御申込下さい。

一、題目 とくに限定いたしません

二、枚数 一応四百字詰八拾枚以内といたします

三、期限 応募申込〆切 一月末日

原稿提出〆切 三月末日

但し、枚数および原稿提出〆切期日については、年内におとなわ
れる編集委員会により再検討の上もし変更があれば、応募申込者各
位に直接御連絡致します。

なお応募申込は、東京大学文学部社会学研究室内福武直宛に、題
目と簡単な内容を書きそえて御送付下さい。それぞれの〆切は厳守
していただきたく、くれぐれもお願い致します。

新会計年度（昭和四一年十月二一日以後）に入つてから会費を納
めていただいた方は左の通りです。どうもありがとうございました。
なお、会費については、本誌掲載をもつて領収証にかえさせていた
だきたいと存じます。また、未納の会費をおもちの方は、郵便振替
で左記宛お送り下さいようお願いいたします。

口座番号 東京八〇二二七

名 称 村落社会研究会

会費を納入していただいた方（受取額）

宮本常一 二六〇〇円

籍山貴太郎 二五〇〇円

米山桂三 三五〇〇円

江沢繁 一〇〇〇円

蒲生正男 一五〇〇円

岩見国夫 一五〇〇円

村武精一 一〇〇〇円

住居表示変更

会員動向

蒲生正男 東京都杉並区和泉四の四四の四三三

岩見国夫

宇部市東梶返 宇部中央高校

新入会員

中野哲二 鹿児島市郡元町真砂八区八班

豊橋市町畠町

愛知大学文学部社会学研究室内
村落社会研究会事務局

事務局より

さる十月十九一二十日の箱根湯本における第一四回大会において、本会事務局を東京教育大学から愛知大学に移すことが決定されました。「会があまり大きくならないうちに」と、先回私どもが、愛知学芸大後藤会員とともに事務局を担当したのは、昭和三三年のことでした。その後、全会員の努力で、本会も地道ながら成果をつみ重ねてくことができました。したがつて、今の段階で事務局をお引き受けするには、もともと荷が重すぎるのですが、会員のみなさまの強い力で引っぱつていただきて、何とか一年はもちこたえてみようと覚悟をきめております。日本のムツの今日の苦悶がいろんな形で本会にも反映されるでしようが、それを乗りこえていけるよう本会の発展を期待して、微力を尽したいと思います。

地方の事務局として各委員、会員のみなさま、とりわけ、編集事務担当の福武会員、東京連絡所担当の中野会員には大変御迷惑をかけすることと存じますが、よろしく御指導の程、お願い申しあげます。

